



Lend a Hand

"手を貸そう"

2003-04年度 国際ロータリーテーマ
ジョンサンB・マジヤペRI会長

TANABE ROTARY

District 2640 田辺ロータリークラブ Club Weekly Bulletin



4つのテスト (FOUR WAYTEST)

言行はこれに照らしてから

- (1) 真実かどうか
- (2) みんなに公平か
- (3) 好意と友情を深めるか
- (4) みんなのためになるかどうか

例会日 木曜日 12:30
 例会場 紀陽銀行三階ホール
 会長 津村寛司
 幹事 荷稻 實
 会報委員長 新藤整市

承認 昭和28年3月2日
 事務所 田辺市栄町24 〒646-0048
 紀陽銀行田辺支店内
 TEL 0739-24-2002
 FAX 0739-26-0264
 mail tanaberc@mb.aikis.or.jp



「円月島」 撮影 稲田静雄会員

司会者

津村寛司会長

ソング

風

ゲスト

田辺税務署
署長 今井和弘様

ヴィジター

本日のプログラム 10/30

米山奨学生 (御坊南RC)
和歌山大学4年
タイ・チン・ミン様
(ベトナム)

次回のプログラム 11/6

会員卓話
東 冬彦 会員
「病氣と歴史」

出席報告

	会員数	欠席者	出席者	出席率
総数	84名	21名	61名	
出席計算者	74名	15名	59名	79.72%
10月9日修正出席率		91.89%		

メイクアップ

- 10/21 地区大会記念ゴルフ大会
(廣本、成田、大川、坪井、渡部)
- 10/21 玉置 (田辺はまゆう)
- 10/22 榎本長 (田辺東)

お祝い

- 夫人誕生日 10/28 松本かずよ (義明)
- 結婚記念日 10/18 瀬戸 10/20 村上
- 10/23 山本 10/24 福本、串上
- 10/25 荷稻 10/28 吉田透

ニコニコ箱

今井署長、ようこそいらっしゃいました。本日、止むを得ず欠席で申し訳ありません。卓話は、後日テープで聞かせて頂きます。……植田芳家内が知事さんから感謝状頂きました。……吉田透長男が、結婚しました。……吉田透階段に手すりをつけてくれたので大変助かります。有難うございます。……脇村湊まつり獅子宿無事勤め終える事が出来ました。田上昨夜甲子園球場にて大声で六甲おろしを唄って来ました。……岩本NTTのタウンページに「うっかり経済学」として我社の記事が出ました。……長井

お知らせ

幹事報告

・近隣クラブの週報が届いています。

委員会報告

親睦活動委員会

長井

- ・11/9 (日)の地区大会へ出席される方、バスのご利用をお願いします。バス代は、3,000円に変更致します。
- ・11/30(日)~12/1(月)の会員親睦会へのご参加宜しくをお願いします。海上自衛隊舞鶴基地・関西電力大飯発電所見学です。参加費は、5,000円です。

社会奉仕委員会

市木委員長

・10/30(木)午後1時30分より紀南文化会館にて暴力追放決起集会及び記念講演、午後3時45分よりカップ-クにおいて街頭啓発パレードが行われます。

野球部

新井

・本日、3時から紀南病院新庄別館のグラウンドで練習を行ないます。26日、千里球場に於きまして練習試合を行ないます。2時集合・3時から試合を行ないます。宜しくお願いします。

プログラム

『 税務行政と租税教育 』

田辺税務署

署長 今井 和弘 様



税務署の行っている税務行政とは国の行う行政のひとつで、税務署は税法の執行だけを行っています。なぜ税務行政が大事かといいますと国際的に成長、発展をしていくためには財政基盤がしっかりして



ソング『風』

いることが必要です。次に国民の安全を守り秩序ある国にする。三つめは国を支える国民を育成することが大事ではないかと思えます。言い換えますと国を支えるものは「財政」と「治安」と「教育」であります。この三つがしっかりしていることが国の発展のバロメーターとなります。その財政の中で税務行政というのは租税収入を担当しています。国民の3大義務として、憲法30条に「納税の義務」というものが規定されております。日本の納税は申告納税制度です。自分の税金は自分で計算して自分で支払うというのが基本になっております。税務行政の本来の目的は、国民の皆様に納税義務の履行を促し、自主的に申告されることを補佐、補助するということです。税金というのは国から利益を享受するための費用負担であるということの認識が重要かと思えます。

各国の税に対する意識というのを見てみますとそれぞれの国によって税の認識というものは違っております。たとえばイギリスやカナダでは国民の税に対する認識というのは公共徳の基本だというふうに意識付けられており、納税は共同社会における当然の費用負担であるという認識がございます。イギリスでは、この世の中で一番大事なことは税金を納めることと安全を守ってくれるおまわりさんを大切にすることだということを小さなときから繰り返し教育しているようです。またカナダでは、公園にゴミを捨ててはいけませんよと教えるのですが、なぜゴミを捨ててはいけないうとこのゴミを片づけるために人の手がいる、そのために税金を使わなくてはならない、だからゴミを捨ててはいけないうように一歩踏み込んで子供に教育しています。さらにアメリカの中学校の教科書には、税金を払うことが好きな人はいない。しかし我々が時々忘れることは、我々自身が政府より提供されているさまざまなサービスの消費者である。だから税金によってその資金をまかなっている。われわれがそれらのサービスを楽しむのであればわれわれはその費用を負担しなければならないと書いてあり、そのような教育がなされています。

各国の税の生い立ちの違いから、税に対する認識はそれぞれの国で違います。たとえばイギリスであればマグナカルタで、昔の封建貴族が国王の不法な税金に抵抗し、国王は課税される業種の同意なくしては新しい税金を負荷できないということを獲得しています。またアメリカでは独立戦争がありました。独立戦争はイギリスがフランスとの戦争費用を捻出するために植民地のアメリカに重税を課した、そこでアメリカがその重税を逃れるために独立戦争を起こして独立した。代表なければ課税なしという言葉は有名です。このように税と革命などによる民主主義の獲得が非常に深くかかわっているということがいえます。ところが日本の場合にはそういった諸外国と比べまして税金と民主主義というものが無関係に発展してしまったため、封建時代のお代官様に取りられる税金と自分たちの国から利益を受けるための費用負担としての税というものが混

同されてしまっています。自分の権利は要求するけれども、税金も安いほうがいいという矛盾した主張になってきているということがいえるかもしれません。納税は公共徳の基本である、という認識が比較的低いといっちは語弊があるかもしれませんが、諸外国に比べると日本においては自主的、適正な申告を期待するには調査と指導というものが必要だと思っております。それによって国民の納税努力の高揚を図るということですから、本来の税の認識とはズレてしまっているのではないのでしょうか。

次の時代を担う児童、生徒に正しい租税教育を充実させるということが非常に大事なことだと思っております。日本の租税教育の現状を見ますと、租税教育に当てられる時間は、一年間に小学校で2時間、中学校で3時間だそうです。これで国家の財政を支える財政の租税歳入の重要性を子供たちに教えるというのはちょっと無理ではないかという気がしています。税務署でも租税教育を考えており、税務職員や税理士の方に依頼しまして学校で税の大切さ、重要性、意義とか意味を、わかっただくように租税教室をやっております。また教師の方からの、どのように生徒に税というものを教えていいかわからないというような声に対応すべく、教師の方たちを対象とした、財政経済セミナー等を開催しています。また学校教育で使ってもらえる教材として教科書の副読本やビデオなども作成し無料で配布しています。税務署による租税教育ということはそれが本業ではございませんので特別なことはできませんが税務署にできることを少しずつ進めているところです。幸い、田辺税務署管内の教育界の皆様には、非常に御理解、御協力をいただきありがたく思っています。皆様方にもぜひ税務行政のバックアップをお願いしたいと思います。

国から享受する利益いわゆる財政の歳出についても国民の皆様にもその管理意識を持っていただきたいと思えます。アメリカの経済学者であるブキャナンという人が赤字財政の政治経済学という本を書きました。その中で言っていることを少し紹介しておきたいと思えます。ある国の政治家が赤字予算を組みますと赤字予算ですから歳出を伸ばして、あるいは減税をすると国民（選挙民）は自分に直接利益がはっきりとわかりますので非常に歓迎します。ところが政治家が歳出をカットして増税をする黒字予算を組みますと選挙民は自分の負担が増えるのでこれを嫌う。家計なんかだと赤字家計じゃ困ります。赤字予算というのは抑制すべきではないかと思うにもかかわらずそうならない。それはいったいなぜか。落語の落ちみたいですが現在の選挙権を持つ選挙民は自分に利益になる赤字予算を好む。そしてそれは将来、今、組んだ赤字予算の借金の返済だけを負担しなければならない現在の選挙民の子孫には今、選挙権がないからだ。赤字財政は子孫に禍根を残すとブキャナンは言っております。これは受け売りですので紹介しておくことにしておきたいと思えます。